

第41回社会人野球日本選手権大会
(毎日新聞社、日本野球連盟主催) 第
2日の31日、和歌山箕島球友会は第
3試合でNTT東日本(東京)と京セ
ラドーム大阪(大阪市)で対戦。4回
目の出場場で悲願の大会初勝利を目指

社会人野球 日本選手権



したが、5-10で敗れ、初戦で姿を
消した。それでも「クラブ王者」とし
て強豪企業チームに堂々と立ち向か
う選手たちの姿にスタンドの応援団
からは、健闘をたたえる温かい拍手
が送られた。「高橋祐貴、安元久美子」

「クラブ王者」堂々と

スタンドの応援は試合開始からヒートアップした。三回の攻撃で水田信一郎選手が無死からチーム初安打で出塁し得点圏に進む。惜しくも後続が凡退するが選手たちの大半が動く松源の取締役商品部長の桑原佑さん(34)は「限られた練習の中で、企業チーム相手によくやっている」と同僚と声援を送り続けた。だが、四回に本塁打などで4点を失うと先発・寺岡大輝投手は無念の降板。桐原勇人投手に後を託した。昨年まで遊撃手として活躍し、2年前の日本選手権にも出場した有田市新堂の会社員、山口春樹さん(27)らが「がんばれ、がんばれ、桐原」とメガホンを手に立ち上がり声をかます。兵庫県たつの市から応援に駆けつけた桐原投手の母美保さん(50)は「口から心臓が出そう。チームのために最後まで仕事を全うしてほしい」とメガホンを握りしめた。ベンチからは野田晃平選手が「しっかり抑えて攻撃につなげていこう」と身を乗り出し声を出す。

七回の攻撃前には甲斐大貴選手を中心に陣を組んで士気を高めた。NTTの2番手、左腕・森山投手から穴田真規選手の右前打などで2死満塁の好機を作り、西口稔基選手が左翼線への2点適時二塁打を放った。マネージャーの川島悠紀さん(22)は「やっぱり終盤に強いチーム。西口さ

んは今まで不調だったから余計にうれしい」と涙ぐむ。大阪府藤井寺市から親戚や近所の人を引き連れて声援を送る西口選手の母雅子さん(51)も「ずっと打てずに悩んでいたのに、めっちゃうれしい」と喜んだ。

八回、浦川拓人主将がナインに気合を入れた。無死満塁の好機を作り、林尚希選手の押し出しの四球などで3点を加え、2点差に迫った。一ゴロで敵失を誘った穴田真規選手の母和恵さん(49)は「終盤の逆転で勝ち上がったので、つないでほしい」。

「クラブ王者」の意地は見せたが、反撃はここまでだった。松源の兼田守社長(60)は「球友会の色を出せた。選手の情熱が見えたい試合だった」と振り

七回表、西口選手の適時二塁打で2点を返し立ち上がって喜ぶ和歌山箕島球友会の応援団—いずれも京セラドーム大阪で



観客を盛り上げる上野山さん(右端)らチアリーダー



和歌山箕島球友会・浦川拓人主将 中盤まで主導権を握れなかったが、最後まで諦めないという姿勢は示せた。打撃、投手力など相手が上だった。

新作ダンスも披露 チア8人

○：有田市職員など8人で結成されたチアリーダーが、びったりと息の合った演技で応援席を沸かせた。4年前から参加する上野山愛子さん(51)「同市千田は、普段公民館で勤務する職員。選手は仕事が終わってから練習している。それを思うと放っておけない」と試合に駆け付けた。今回は松源のCM曲を組み込んだ新作ダンスを披露。「会場を一体にしたい。かっこよく踊ります」とポンポンを振った。

市長が応援団長 ○：箕島高で甲子園を目指した元高校球児の望月良男・有田市長(43)は応援団長としてドームに駆けつけた。日本選手権に初出場した2006年は市議だったが、応援団員として壇上に上り、1カ月猛練習したという振り付けを披露した。「当日は試合が気になっ

て、グラウンドばかり見ていたので怒られた」と苦笑する。「地域から愛されているチーム。全員野球を見せたい」と声援に力が入った。

箕島球友会 惜敗

和歌山箕島球友会

00000002330105

NTT東日本